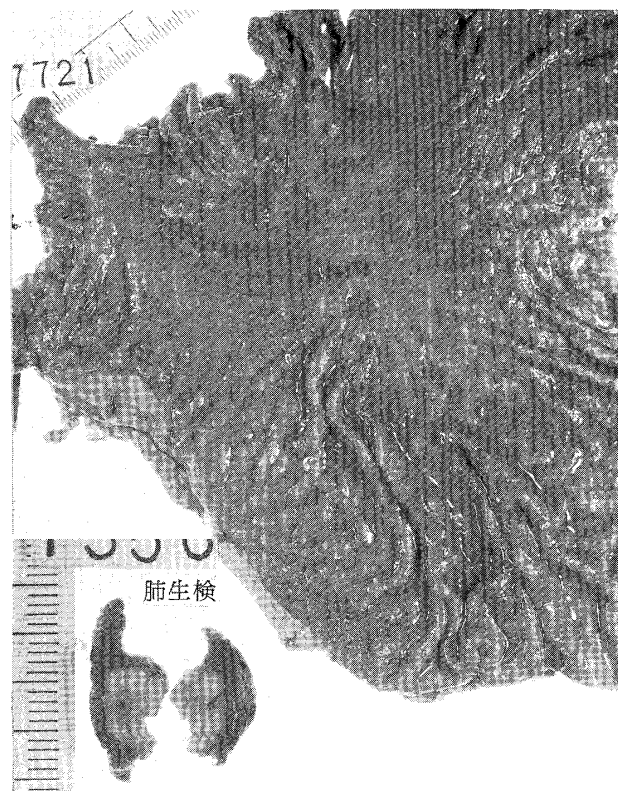


R 67

小肺癌とⅡc型胃癌との併存に対する治癒切除の1例

金沢大 第1外科, 同中検病理*
 ○黒田 讓, 岩 喬, 渡辺洋宇, 木原鴻洋,
 佐藤日出夫, 深谷月泉, 山本恵一, 北川正信*

初診時(1973.10.)50才女, 非喫煙, 家族歴:
 胃癌, 結核, 高血圧あり. 倦怠微熱を訴え検査中右上葉に coin lesion 発見, 開胸生検で腺癌を診断, 根治的右上葉切除施行. 肺癌は径9mm, Po Do No(no)Eoで, 末梢型(微)小癌とみなし得る. また約2年前より上腹部不快感, 腹痛を訴え繰返しX線検査をうけ, 胃潰瘍と診断されていた. 肺切除後も追及をつづけ, 1975年1月胃内視鏡でビラン性胃炎, 癌(-). 同年3月再施行により生検診 group V, 同年4月根治切除を行なった. 胃癌は So No Po Ho, 肉眼的に表在癌Ⅱcの形を呈し前庭部(A)を占め大きさ5.3×5.0cm, 低分化腺癌で, 大部分粘膜層(m)に伸展するが, 小部分固有筋層(pm)をおかす. Iyo noで2年半後それぞれ再発の徴なく健存している. 本例では胃癌の肺転移の可能性を検討したが, 両癌巣とも転移なく, 組織型が異なり, しかもそれぞれが肺および胃原発癌の特徴を具えているとみとめた. 担癌患者の診療にあたっては, 1臓器の治療に満足しておわることなく, 合併する僅かの異変をも手がかりとして追究する努力を惜しまぬ態度が必要であり, 本例の如く, 両臓器の癌腫を, いずれも略々早期に根治せしめ得ることを経験した.



R 68

1肺葉内に同時期に発生した稀な肺癌との重複癌症例の検討

長崎大学第1外科
 ○柴田紘一郎, 綾部公懿, 武富勝郎, 大曲武征,
 永野信吉, 川崎正名, 辻 泰邦
 宮崎医科大学第2外科
 富田正雄
 長崎大学第2内科
 斉藤 厚, 籠手田恒敏, 奥野一裕, 原 耕平

胸部疾患診断技術の向上、並びに集団検診の普及に伴い肺悪性腫瘍症例の早期発見さらに根治的外科切除率も向上しつつある。それに伴い切除標本検索にて術前診断した以外の病変の認められる症例も増加の傾向にあると思われる。我々は最近1肺葉内重複癌(組織型は小細胞未分化癌と腺癌)症例と1肺葉内に腺癌と紡錘型細胞肉腫が独立併存した症例を経験したので報告する。症例1は69才男性で49年3月咳嗽、喀痰あり其院にて胸部レ線左上肺野に異常陰影指摘され経過観察、その後同陰影の増大と共にさらに下方に1.2cm大の円形陰影出現、本学第2内科にて主陰影の針生検にて小細胞癌ClassⅣと診断され下方陰影は肺内転移疑いにて12月11日左上葉切除術+リンパ廓清術施行、切除標本の組織学的検査にて、主陰影を呈した部は小細胞型癌で下方陰影を呈した部の組織型は低分化腺癌であり葉間リンパ節に転移のみられ腺癌の転移であった。症例2は56才女性で2年前より胸部集検にて右中肺野S₄の部に3.5cm大の嚢胞性陰影あり経過観察していたが50年末頃より嚢胞性陰影内に腫瘍影が出現さらに血痰があり本院第2内科に入院、精査の結果肺癌診断にて当科紹介さる。51年2月手術腫瘍はS₄中心にあり1部S₃に侵潤しており中葉切除+S₃部分切除術施行、切除組織検査にて腺癌と嚢胞壁下より発生した紡錘型細胞肉腫が隣接はするが独立併存していた。

教室では肺との重複癌6例を経験しているが、1肺葉内に発生した重複癌は1例のみで文献的にも1肺葉内発生重複癌の切除報告例は本邦に於ける例を検索しえたにすぎずそれらは全て扁平上皮癌と腺癌の組みあわせであった。さらに第2例の如く癌と肉腫の重複例はさらに少く文献的に2例を検索しえた。以上本邦で稀な1肺葉内に同時に異なる組織像を呈した肺悪性腫瘍症例2例の経験よりその発生機序及び診断、治療さらに分類上の問題点について若干の考案をえたので報告する。